



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療  
先進医療の推進  
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 榎宏太郎  
編集責任者 広報委員長 高橋浩二  
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1  
TEL 03-3787-1151(代表)

ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

## アジサイの咲く候

### 歯科麻酔科 科長(副病院長) 飯島 毅彦

風薫り、花が一斉に咲き誇る季節を楽しんでおられると思います。

3月の梅、桜に始まり、4月のモクレン、ハナミズキ、ユキヤナギ、5月のツツジ、サツキ、そして、これからアジサイですね。この短期間の間にこれだけの街路の花が咲いてしまうのは少しもったいないような気がします。もう少し長い間楽しみたいものです。過ごしやすい気候につられて、気持ちもゆったりするものです。

紫陽花の一夜の雨に艶やかに

久保田一豊 1999年

この時期に特に日本らしさを感じる花は菖蒲でしょうか？杜若もやわらかくて良いですね。池坊の生花でも好んで使われ、その濃い紺色は和室によく合いますね。フランスの画家クロードモネは日本通ですが、日本から菖蒲を取り寄せてジベルニーの庭に植えました。水辺の菖蒲と上からの藤の花は日本の美の一つでしょうか？

閑話休題 歯科病院では今年度から職員の制服が変わり、色とりどりの真新しい服装を目にすることもあるかと思えます。歯科医師、歯科衛生士、他 患者さんに接するものは「スクラブ」と呼ばれるシンプルな被り物を身に付けています。スクラブとはごしごし洗うという意味で、いつも清潔な衣服で患者さんに接するのに適した簡単に洗濯ができる素材でできています。かつては、医療機関では白衣が医師の象徴であり、看護師さんはナースキャップをつけていました。昔の映画を見るとロングドレスの白衣を着た看護師さんもいますね。白は清潔の象徴でした。しかし、白いから清潔とは限らず、同じ衣服で洗濯をせずに多くの

患者さんに接することは院内感染のもとになるとの考えから次第に医療従事者の衣服も変わってきたのです。ナースキャップは看護学校学生が看護師免許を受けたときに戴帽式という儀式ではじめて着用が許されます。いまでもある厳かな儀式ですが、実際には着用していないところが増えています。清潔に関する意識が見た目から実質に代わってきています。

昭和大学では附属病院すべてに共通する身だしなみの規定を定めています。女性の髪形や色まで決められています。清潔が要求される病院では大切なことです。病院を訪れる患者さんは多かれ少なかれ緊張していらっしゃる。我々も身だしなみを整えてお迎えしなければなりません。かつて金解禁を実現したかつての大蔵大臣であった井上準之助氏は英国留学経験もあったことから身だしなみにうるさかったことで有名です。日本銀行内の給仕のボタンが取れているのを見て上司に注意し、「服の粗末なのは一向構わないが、ボタンの取れておるのは困る。形は心を支配する。」と説き、その給仕を休ませてボタンをつけさせたという逸話があります。「形は心を支配する。」は名言でしょう。

常日頃、身だしなみには気を付けたいものです。スクラブは一見ラフな身だしなみに見えますが、清潔を保つ身だしなみとだけ思っただけです。これから歯科病院は清潔感を大事にして行きたいと思えます。



## 歯科麻酔科 紹介

「歯科麻酔科」と聞いて、皆さん何を連想されるでしょうか？歯医者さんの麻酔といえば、椅子に座ったとたんにブスッとやられるあの注射(局所麻酔)を思い出されるかもしれません。治療中の痛みを取り除くために局所麻酔はなくてはならないものですが、そのためには注射の痛みは少々ガマンしていただくしかありません(スママセン)。この注射が嫌だから歯医者も嫌！という方も少なからずいらっしゃると思います。その他、歯医者に行くと聞こえてくるキーンやカチャカチャという音、薬剤の臭いや味など、歯科での嫌な思い出によってまったく治療が受けられなくなる患者さんもいらっしゃいます(歯科治療恐怖症)。私たち歯科麻酔科は、こういった不安の強い方、あるいはインプラントなどの手術を受けられる方、お口の中に物が入るとオエツとなる方々に、静脈内鎮静法(静脈麻酔)や全身麻酔を行っております。

静脈内鎮静法とは、全身麻酔薬や鎮静薬を血管内に少しずつ投与することにより、歯科治療中に感じる不安や緊張をやわらげてリラックスした状態で治療を受けていただく方法です。なかには眠ってしまう方もいらっしゃいますが、全身麻酔とは違って完全に意識がなくなるわけではないので、治療中にコミュニケーションをとることもできます。治療後は、しばらく休んでいただいた後、お帰りになれます。この方法を受ける患者さんも年々増え続け、今では年間1500例を越えています。

局所麻酔や静脈内鎮静法でできない手術、例えば歯肉に深く埋まった親知らずの抜歯や顎顔面骨折、癌の手術などの時には全身麻酔を行います。全身麻酔の場合は基本的に入院していただきますが、当科では日帰りでの全身麻酔にも力を入れています。現在は子供や障がいをお持ちの方を中心にしていますが、手術したその日に家に帰ることができますので、学校や仕事をなかなか休めないという患者さんに好評を得ています。

全身麻酔や静脈内鎮静法は危険？と思っている方もいらっしゃるかもしれません。1800年代半ばに始まった全身麻酔は、はじめの100年は安全性との戦いでしたが、その後の60年は麻酔薬の改

良や設備が格段に進歩しました。日本麻酔科学会の調査では、麻酔管理が原因となる事故は約10万例に1例となっています。当院での麻酔管理症例は年間2500例あまりですから、40年に1例起こるかどうかということになります。現在まで重篤な合併症などは起こっていません。歯科麻酔科では直接の治療はいたしません。治療は、皆さんの主治医が行います。私たち歯科麻酔科医は麻酔を行うことに専念し、たえず皆さんの安心と安全を確保いたします。

最後になりましたが、昭和大学全体がそうであるように、当科といたしましても地域連携が今後の重要な課題の一つと考えております。地域の先生方の診療室におかれまして、歯科治療に際し、全身管理及び麻酔の専門的アドバイスが必要な時は、当科までご連絡ください。

歯科麻酔科 医局長 増田陸雄



安心と安全を守ります！



歯科麻酔科スタッフ

## 就任のご挨拶



この度、顎顔面口腔外科診療科長を  
拝命致しました、代田達夫と申します。

顎顔面口腔外科では、親知らずな  
どの抜歯やインプラント手術などの「歯  
科外科」、顎変形症、炎症、外傷、嚢  
胞、顎関節疾患、良性腫瘍、唾液腺疾患など歯・  
口・顎領域に生じるさまざまな疾患を対象としてい  
ます。また、舌癌や歯肉癌など口腔内に発症する  
悪性腫瘍の治療は、本学附属病院の口腔腫瘍外  
科と協力して行って参ります。これらの疾患では、  
咀嚼、嚥下ならびに言語機能の障害や顎顔面の

変形などによる審美障害を生じることも少なくありま  
せん。私たちは、単に疾患を治療するのではなく、  
口腔・顎・顔面の形態や機能を回復させて、患者さ  
んの社会復帰をサポートすることが大切であると考  
えています。これまでに得た知識と経験を生かし、  
できるだけ数多くの病院や診療所の先生方との密  
接な連携により「先進的な口腔外科診療」を実施  
するとともに、有能な臨床家、研究者の育成に全力  
を尽くしたいと思います。

顎顔面口腔外科 科長 代田 達夫



この度、歯内治療科診療科長を拝  
命いたしました。身に余る重責です  
が、診療・研究・教育に全力を尽くし  
昭和大学歯学部及び歯科病院のさら  
なる発展の一助となれますよう努力  
する所存でございます。松本光吉名誉教授退官の  
後歯内治療科を運営できましたことは、松本光吉  
先生をはじめ歯内治療科のOBの諸先生方のご指  
導とご協力の賜物であり、歯内治療科を支えてくだ  
さった昭和大学の先生方に厚く御礼申し上げます。  
これからは、診療科として新しい歯内治療を積極

的に導入し質が高く効率の良い治療を目指したいと  
思います。スキルアップのための講習会や勉強会  
を精力的に行い診療科全体のレベルアップに努め  
てまいる所存です。また、地域の医療機関との連携  
を重視し難症例の精査と治療にも取り組んでまい  
ります。臨床と結びついた研究も積極的にを行い教育  
にも還元出来るよう努力する所存です。

今後ともなお一層のご指導・御鞭撻を賜りますよ  
う何卒宜しく願いいたします。

歯内治療科 科長 増田 宜子



この度、6月1日付で昭和大学歯科  
病院事務長を拝命いたしました、羽田  
徳永(はだとくなが)です。着任前後に  
クリニカルセミナー、ワークショップを経  
験し、少しずつ名前を覚えてもらっ  
ておりますが、同時に責任の重さも日々実感しており  
ます。

過日、国際宇宙ステーションで日本人初の船長  
を務めた若田光一さんが無事地球に帰還されまし  
た。その若田さんが着任する際、「和の心が信念。  
皆さんへの思いやりを忘れず、コミュニケーションを  
しっかり取ってチームが最大限に力を発揮するよう  
に頑張りたい。」と語っておられました。わたくし自身  
が今回の挨拶の依頼を受けたとき、真っ先に思い

浮かんだのが、この言葉でした。事務職員はもとよ  
り、歯科病院の全ての方々とこの思いを共有してい  
くことができますよう、若田さんのこの言葉を胸に取り  
組んで参りたいと思います。

わたくしは、「トイレの100ワット電球」のようだと、人  
から評されることがあります。自分ではそうは思わな  
いのですが、「必要以上に無駄に明るい性格」という  
意味だそうです。「無駄」と言われるとやや抵抗もあ  
るのですが、そんな自分らしさを貫いて、歯科病院  
の行先を照らす方策を少しでも実行できるよう、真  
正面から困難に立ち向かって取り組む所存です。こ  
んなわたくしをどうかよろしく願います。

事務長 羽田 徳永



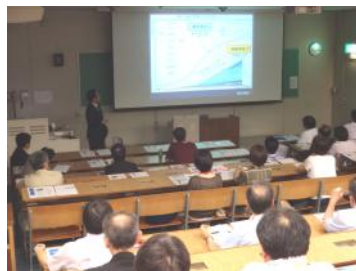
## 歯科病院クリニカルセミナー開催報告

5月31日(土)午後6時から歯科病院で、地域の歯科医師会の方々を対象としたクリニカルセミナー・懇親会が開催されました。土曜日診療後の貴重な時間ですが、近隣の歯科医師会を中心に、52名の先生がお集りくださいました。

臨床講堂で行われた講演会では、口腔外科の代田教授がBP製剤投与患者に対する歯科治療について、基礎から実際の臨床での注意点まで大変わかりやすいお話をしてくださいました。私は超高齢社会での有病者歯科治療、主に抗血栓薬服用者の抜歯や歯性感染症への対応についてお話ししました。講演後のアンケートでは、大変面白

かったとの感想が目立ち、次回以降のテーマのご要望も多数頂きました。講演後の懇親会では、病院職員と連携医との交流会と各科からも連携担当がご挨拶いたしました。昭和大学歯科病院は今まで以上に地域の先生方のご信頼にお応えできるよう、連携を密にしてゆきます。ご参加有り難うございました。

地域連携歯科診療科長・地域連携医療連携室長  
丸岡靖史



## 公開講座のお知らせ

昭和大学歯科病院では、皆さまにお口の健康を保つのに役立てていただくため、公開講座を開催することに致しました。皆さまのご参加をお待ちしております。

第17回 昭和大学公開講座  
「暮らしと健康」 - お口の健康 -

### 講演内容

- 1 お口の中にも「がん」ができます！  
講師：代田 達夫  
(昭和大学歯学部教授、顎顔面口腔外科科長)
- 2 口腔ケアは大事です  
講師：丸岡 靖史  
(昭和大学歯学部准教授、地域連携歯科科長)

日時：平成26年7月12日(土)13:00～15:00  
場所：昭和大学歯科病院 1号棟6階臨床講堂  
大田区北千束2丁目1番1号

受講予定人数：100名  
受講料：無料（当日申し込みでも受講可能。ただし修了証の発行は事前申込の方のみとなります）  
受講申込：昭和大学歯科病院に直接あるいはメールでお申し込み下さい。  
後日、受講証をお送りいたします。

◎直接お申し込みいただく場合  
昭和大学歯科病院1Fロビー（申込用紙に記載の上、備え付けのポストにお入れ下さい。）  
◎メールでお申し込みいただく場合  
件名を「公開講座受講希望」とし、氏名、住所、電話番号を入力の上、  
下記アドレスまでお送り下さい。  
dh-festa@ofc.showa-u.ac.jp

申込締切：7月4日(金)  
なお、ご不明瞭な点がございましたら、昭和大学歯科病院事務課管理係にお問い合わせ下さい。

## 編集後記

サッカーワールドカップが始まりました。前回の覇者スペインや古豪のイングランドが早々に一時リーグ敗退と波乱の展開です。サムライジャパンも大ピンチです。高温多湿の今日この頃、サッカー観戦で寝不足だと、免疫力が落ち、歯周病が悪化する可能性もあるかもしれません。。。

皆様、どうぞ歯とお口のケアを毎日十分おやり下さい。  
また、歯科病院での定期的検診もお忘れなく。

(K.T)

